

第3回第2期豊川市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 議事概要

- 日 時 令和元年10月25日（金）午後1時30分～午後3時30分
- 場 所 音羽文化ホール大会議室（3階）
- 出席委員
- | | |
|-------------------|--------|
| 豊川市体育協会 副会長 | 浅野 博徳 |
| 豊川市スポーツ少年団 本部長 | 関口 龍一 |
| 豊川市体育振興会連絡協議会 会長 | 小川 豊次 |
| 豊川市スポーツ推進委員会 委員長 | 柴田 功己 |
| 豊川市立小中学校長会 会長 | 小野 清隆 |
| 元豊川市立南部中学校 校長 | 伊藤 博之 |
| 豊川市社会福祉協議会 地域福祉課長 | 小林 弘行 |
| 豊川市体育協会 事務局長 | 北国 太郎 |
| 豊川市スポーツ推進委員会 副委員長 | 神谷 美也子 |
- 欠席委員 総合型地域スポーツクラブわすぽ一宮 会長 荻野 宏子

■会議要旨

事務局より資料確認

1. あいさつ

伊藤委員長 最近、ラグビーやプロ野球の日本シリーズ、オリンピックのマラソンなどが話題となって、マスコミ等に多く取り上げられている。スポーツが身近な存在となり、スポーツを楽しむ余裕がでてきたという印象である。豊川市のスポーツ振興計画をみると、かなり内容が煮詰まってきた。本日は、豊川市民がスポーツに親しむための案を検討するということで、しっかりとご意見をいただき、会議を進めていきたいと思う。

2. 議題

（1）第2期豊川市スポーツ振興計画（仮称）（案）について

- 事務局 資料に基づき説明。
- 伊藤委員長 パブリックコメントの手続きへの対応を踏まえて、この時期に正式な計画名称を決定する必要がある。事務局から提案のあった計画名称について、ご意見、ご質問がある人はお願いしたい。
- 小野委員 サブタイトルが非常に分かりやすいので、現状のままで良いと思う。
- 伊藤委員長 国の計画名も踏まえているので、硬い表現となっているが、サブタイトルがやわらかい表現で分かりやすいので、現状のままで良いとい

う意見であった。これでよろしいか。

(一同承認)

- 伊藤委員長 それでは事務局より提案のあった「第2期豊川市スポーツ振興計画」を正式名称としたいと思う。
- 小野委員 38ページの推進体制の小・中学校の部分で、体育の充実を図ることや学校行事における取組については記載があるのに対して、部活動という言葉を使わなかったのは意図的なものか。
- 事務局 教育委員会として、教員の多忙化の改善にも取り組んでいる。そうしたことも考慮して、あえて部活動という言葉を使わなかった。しかし、子ども達、特に中学生にとってスポーツをする場として部活動の存在は大きいという実態もあり、記載を追加することも考えられる。
- 伊藤委員長 教員の多忙化改善ということで、他市も部活動を縮小していく流れがあると思う。
- 小野委員 スポーツ振興が叫ばれる中で、子どもたちの運動の場が減るのは確実であるが、社会体育への移行は容易ではない。小学校の部活はなくそうという声も出ている。計画書に載せるかどうかということよりも、そういう状況があり、良い移行ができれば良いが、現状では受け皿がない状況である。子どもたちとしても、きちんと運動はしたいと思っているので、そこを計画の中に載せていただいて、実際にそういう取り組みができれば理想である。しかし、部活動が縮小や廃止していく中で、子どもたちにどのように運動の場を確保していくのが課題となりながら、今後数年間は推移していくと思う。学校としても決定打が出せない状況である。
- 関口委員 社会体育に移行するのは良いが、指導者の数はすぐには増えない。また、指導者は基本的にボランティアであるため、何らかのインセンティブを与えるような方法でやっていかないと、このままボランティアに頼って指導をするというのは難しいのではないかと思う。
- 伊藤委員長 指導者がなかなか集まらず、今後費用面も含めて厳しくなると思う。
- 事務局 小野委員のご指摘の通り、非常に難しい問題であると考えている。事務局としても教員の負担を増やすことはなかなか難しいと思うが、子どものスポーツ機会を小中学校の立場から少しでも充実させてほしいと考えている。計画書の中では、そもそも学校がやるべきことである「体育の授業の充実」や、現在でも行われている学校もある「一校一取組」について記載するにとどめた。

また、社会体育へのシフトも重要になってくる。国では、部活動の受け皿として総合型地域スポーツクラブを想定して、これまではたくさん作ることを推奨していたが、なかなか進んでいない状況がある。それはそれぞれのクラブの独立した運営が難しいことや指導者の確保が課題となっているためと思われる。今後はその点を踏まえて、総合型地域スポーツクラブの質的充実を図るような支援が重要になってくると思う。そうしたことが一つの選択肢として、子どものスポーツ機会が今以上に創出できればと思っている。

北国委員

総合型地域スポーツクラブについての記載が33ページにあるが、新しく増やすという意味はみられない。意思があれば10年間で増やして欲しいが、そうした記載がどこかに入れれば良いと思う。現在、3つの中学校区にしか総合型地域スポーツクラブがない。すべての市民が希望した時に容易に参加できる受け皿があると良いと思った。

質的充実について触れているが、これは既存のクラブがすでに出来上がったうえでの話になる。豊川市の場合は、質的充実の前に他の課題もあるので目を向けてほしいと思う。質的充実に向けて国ではスポーツリーダーというものを作ろうとしている。専門的な知識を持った人がクラブに入って質的な充実を図ろうといっても、現在豊川市にそうした人材がいない。資格がないと運営ができなくなっているため、自由に立ち上げることは難しい。スポーツ少年団でも資格の認定組織ができて、費用がかかったり、非常に運営がしづらくなっている現状である。言いたいことは、もう少し窓口を広げておいてほしいということである。また、質的充実についてはクラブごとの考え方があると思うので、意見交換の場をスポーツ課が主導して設けてくれると、各クラブの意見が出てくるかと思う。その結果、質的充実にもつながると思う。

伊藤委員長

総合型地域スポーツクラブを作っていくことは、費用面も含めてかなり大変なことだと思う。学校中心にやっていくということになると、本来そうしたことは学校の仕事ではないので難しい。豊橋市では部活動の担い手として地域に移す際にクラブを作ったようだが、無理に作ったため、苦しくなって先細りしていった。自然発生的にできたものについては、今も残ってうまくいっている。

事務局

総合型地域スポーツクラブを新しく作るということが計画の中で読み取れないというご指摘をいただいた。その点については、今後作らないというわけではなく、作りたくて声が上がれば応援をする。そのあたりの誤解を生まないような表現で記載をしたいと思う。

質的充実については、既存のクラブでの話ということであり、市内の3クラブにそれぞれの課題があることから、支援が必要という話であったと思う。その点については、ご指摘のあった意見交換という形で交流をすることで持続的なクラブ運営につながってくると思う。まずは、意見交換を開催していければと思う。そうした具体的な事業については、他とのバランスで記載できるか分からないが、実務としては意見交換等をやっていききたいと思う。スポーツリーダーの資格やスポーツ少年団における資格という話もあった。そのあたりも市として応援できれば良いと思っている。理想的には資格取得にかかる費用の補助等を出せれば良いかもしれないが、難しい面もあるため今後の検討課題として、質的充実が様々な面から応援できればと考えている。

小林委員

今週、現役でパラスポーツをしている方の話を聞く機会があった。その方は右の太ももを切断されて、来年の東京オリンピック・パラリンピックにも出場することが期待されている。中学生の時に足を切断することになったが、自身の障害を受け入れられなかったとのこと。パラスポーツを通じて外国の人と接するなかで自分の障害を受け入れることができたようである。私としても来年の東京オリンピック・パラリンピックを機会に、障害者のスポーツに興味が増してきた。どちらかといえば福祉的なことになるかもしれないが、障害をお持ちの方に対する接し方についてもお話があったので、今後活かしていきたい。計画書の30ページには、色々なところで障害者の方がスポーツに親しむ機会の創出していくということが記載されていると思う。

伊藤委員長

30ページの方策③の部分だと思うが、そこに「交流も含めて」という文言も入っていくと、障害のある方がスポーツをするだけでなく、交流も含めた理解を深めることになるということか。

小林委員

その通りである。

事務局

色々な人と接することで自身の障害を乗り越えられたというお話だったと思うが、社会参加や交流は重要であると思う。そうした人たちにとってスポーツに親しむ機会の創出というのは、今後、本計画の核となるところであると思う。記載の仕方としては現状のようになっているが、しっかり取り組んでいかなければならないと思っている。ご指摘のあった「交流」というキーワードを入れた方策として取り組んでいきたいと考えている。

小川委員

中学生や高校生、更には一般市民もそうであるが、スポーツと医学の問題をどう捉えるかということがある。娘が筑波大学に進学し、スポーツを研究していたが、最終的には自分の体を医学の面から研究し

ていた。そのようにスポーツをすることに対して、自分の肉体の管理をどのように医学の面からみていくのかということも中学生や高校生から必要になってくるのではないかと思っている。スポーツ振興ということと同時にスポーツ医学についても、計画の中に取り入れていった方が良いのではないかと思っている。

伊藤委員長

陸上の大会では、必ず専門のトレーナーを常駐させて、子どもが体の状態がおかしいとか、痛いということになれば、トレーナーがみて、対応するという形をとっている。トレーナーの育成も必要だが、選手自身が肉体の管理について教えてもらえば、子どもたちが少し変わってくると思うのでやれるとよい。しかし、市内大会でトレーナーや医学面も含めた対応をしていくというのは、難しいと思うが、サッカーの場合はどうか。

関口委員

主要な大会にはドクターや看護師がいる。普段の活動でも昔と比べると、身体の管理等に非常に気を使っており、例えば、捻挫して少しでも痛みがあれば練習させないということがある。ただ、医学の専門的な知識のある方に講習会等で指導していただくこともあるが、そうしたことは継続した方が良くと思う。

予防医学の立場からスポーツに親しむことは良いことである。年々医療費が増加し、43兆円もかかっているという話もある。それを少しでも減らすには、やはり予防医学の面から、子どもから高齢者までスポーツに携わっているということは良いことだと思う。

伊藤委員長

色々な団体等の中でスポーツと医学について、具体的な検討がされていたと思う。「する」スポーツの中に入れていただければ良いのだが、なかなか難しいかもしれない。今後検討をお願いしたいと思う。

関口委員

10ページに市の施設一覧がある。サッカー場は最近、新しい施設を造ってもらったが、おそらく、この規模の自治体で天然芝のサッカー場をこれだけ持っている自治体はなかなかないと思う。これは非常に幸せなことである。ただし、せつかくの天然芝がサッカーや陸上などの限られた種目しか利用できていない。そこで提案だが、小学校や中学校、あるいは手始めに保育園や幼稚園からでも良いので、グラウンドの芝生化について検討してほしい。ヨーロッパの先進国では芝生が当たり前になってきている。土のグラウンドでは、風が強い日に砂塵をまき散らして、近隣に迷惑をかけていることもある。芝生にすることによって、ヒートアイランドの抑制効果が期待でき、転んでもけがをしにくい効果もある。また、一説によると15㎡の芝生があることによって、家族4人の二酸化炭素を吸収して、酸素を供給するというこ

ともある。サッカーの川淵チェアマンが全国の学校の芝生化プロジェクトを立ち上げた。ゴルフ場のようなきれいな芝をイメージしているかもしれないが、芝というのは草である。成長が速い芝もあり、そうした芝で育成して、成功している学校も全国にはある。手始めに規模の小さい、幼稚園か保育園のグラウンドで実践したらどうかと思っている。

事務局

本市でも過去に公共施設の芝生化に関する研究をしたことがあった。砂塵が飛ばないことやヒートアイランドの抑制、けがをしにくいなどのメリットがあるので、子どものスポーツ機会という意味でも公共施設の芝生化というのは意味のあることだと思う。気になるのは芝生化をしてもうまくいかない事例も他市ではあるようだ。育てるには日光や水や肥料など様々な条件があり、手間もかかるので、特に中学校や高校などの運動頻度が高く、踏み付けの多いところは芝生を育てるのは難しい。関口委員のご指摘のように、保育園や幼稚園ということであれば、可能性は大いにあると思う。過去の政策研究では、一宮保育園の園庭を芝生化して成功した例もある。そうした事例も踏まえて、今後、子どものスポーツ機会を充実させるうえで、公共施設の芝生化は重要であると考えているので、計画書の書き方も前向きに検討していきたいと思う。

伊藤委員長

保育園や幼稚園のグラウンドの芝生化ということであったが、小・中学校では難しいと思われる。実は、私が教員になったころの昭和55年くらいに、グラウンドの芝生化の話があった。夏休みの草取りや芝刈りなどで教員にとっては非常に多忙であった。現在の教員はさらに多忙になっているので、草刈りなどを誰がやるのかというときに、非常に大変になるのではないかと思う。昭和55年のときは、頓挫して結局芝生をとってしまった。小学校なら良いかもしれない。

小野委員

校庭全体となると難しいと思う。芝生は非常に良いと思っており、全面ではないにしても、校庭の4分の1が芝生になって、そのうえで子どもたちが自由に動いたり、危なくない範囲での体育の授業やお弁当を食べたりすることができれば、本当に素敵であると思うが、管理面が気になる。

北国委員

芝生は滑るので、瞬発的に動くときに足を取られてしまう。そういう瞬発的な競技は難しいと思う。また、確かに管理も大変であった。

関口委員

管理がうまくいっている例をみると、子どもたちにも管理をまかせている。例えば、エリアごとに各学級に管理させて、雑草などをとらせる。競争させて雑草を取りながら、芝生に生えている雑草とはどう

いったものかというような知識も付けていくということをやっている例もある。芝刈り機は小さいものでは手間がかかってしまうので、大きいものが必要になる。これは国とか自治体の予算になると思うが、かえって人件費をかけるよりも大きい芝刈り機を使った方が良いといわれている。

事務局

スポーツと医学については、4ページに生活習慣病や予防医学について記載している。また、35ページのコラムには、国の第2期スポーツ基本計画の引用の中で「医療費抑制にもつながります」ということを書いている。こうしたことも入れながら、スポーツと医学に関連があることをPRしていきたいと思う。また、自分の体を知るということは大切なことであるので、健康づくりのためにそうしたことが必要ということをどこかで表現できればと思う。

今後、陸上ではトレーナー、サッカーでは看護師を大会に呼ぶというような医療面でのケアについても必要になってくるのかもしれない。34ページの異分野との連携の中には、スポーツと観光だけでなく、スポーツと医学も含めて異分野と連携させていきたいと思う。

神谷委員

施設情報の発信の内容がどのようなものか分からないが、ウォーキングが上位にきているので、ウォーキングコースやウォーキングについての情報を盛り込んでみてはどうか。

連携について計画書のいたるところで書かれているが、うまく連携できると良い。

事務局

計画の策定にあたってアンケート調査を行ったが、ウォーキングのニーズが前回と比べて高くなっていると感じた。豊川公園の施設を再配置していく中で、優先して取り組んでいくこととして、ウォーキングコースやランニングコースの整備を掲げているので、市民がアクセスしやすい市の真ん中にある豊川公園で、安心してウォーキングできることは大事なことを考えている。最近ではスポーツ公園の第2期工事も完成して10月から供用を開始している。夜間照明はないもののウォーキングしやすいコースとなっている。市のホームページには、ウォーキングを推奨する特集ページを開設している。そこではウォーキング教室やウォーキングコース、ウォーキングに必要な体調管理といった情報も特集している。そうしたものについて、しっかり情報発信して市民に知っていただき、情報を活用していただけるようにするのが、私たちの仕事だと思っている。37ページの施設の情報発信というのは、情報をただ出すというのではなく、利用者目線で提供することが重要であると思う。今後もしっかり取り組んでいく。

連携については、先ほど北国委員より総合型地域スポーツクラブで連携したり、交流したりすることが大事であるというお話をいただいた。スポーツ推進委員会では昨年度、東海4県の研究発表会という大きな事業があった。その中では総合型地域スポーツクラブの人たちを集まっていたき、意見を聞いたり、スポーツ推進委員の人たちと交流することなどを試行的に行った。今後は、色々な団体との連携を市が促していきたいと思うので、ご意見を参考にさせていただきたいと思う。

伊藤委員長

豊川公園に行くと多くの人たちがウォーキングやランニングをしている。朝から夜まで子どもたちが来ており、また高齢者の方も多いようである。あの周辺で活動できると良いと思う。情報発信や連携を含めて、取り組んでいただきたいと思う。

浅野委員

スポーツに無関心であったり、嫌いな人が多いことが気になる。その人たちを好きになってもらう方策はないものかと思っている。

小野委員

今回のラグビーのワールドカップで、これまで全くラグビーに興味がなかった人たちが、ラグビーをみるようになった。これは宣伝の仕方やメディアの力が大きいと思った。今回のことで嫌いとはいわないまでも、興味のない人たちが目を向ける機会はあるのだと思った。スポーツであれだけの人が動くということは、きっかけ次第で変わってくるのではないかと可能性を感じた。

伊藤委員長

発信するということがホームページによる周知だけでは難しい部分もある。スポーツを好きになってもらうために、本計画の考え方や取り組みをどのようにして広げていけるかを検討できれば良いと思う。

事務局

これまでは「する」が中心であり、実施率等に注目していたが、分析してみると、「みる」「ささえる」など、「する」人ではない人を増やすと、それがきっかけとなって、「する」につながっていくということが分かった。その辺りをまとめたものが、国のスポーツ実施率向上のための行動計画である。豊川市では、こうしたものも踏まえて、取り組んでいかなければならないと感じている。忙しかったり、機会がなかったりして、スポーツに関わることが少なかった人たちに対しても、身近で気軽にスポーツができる環境づくりが大切ということで取組を進めていく。スポーツというと、競技スポーツをイメージして、敷居が高いと感じがちであるが、ヨガやダンス、ウォーキングなどもスポーツであり、また「みる」こともスポーツにつながるということもしっかりと発信して、健康につながる「する」スポーツへと変化していけば良いと思う。小野委員のご指摘のように、ラグビーをみることや

市民体育大会に家族が応援に行くなど、そういうところからスポーツの楽しさを感じてもらい、好きになってもらえればと思う。

柴田副委員長

スポーツ推進委員は各小学校区体育振興会に所属しており、9月には市民体育大会がある。そのなかの種目として小学生のミニバスやソフトボールがある。各小学校区で予選を行うが、参加児童が年々減少している。児童数はいるものの、嫌がって参加しない場合がある。強制的に参加させるわけにはいかないで、友達に呼んでもらうしかない。また、合併などにより予選に参加するチームも少なくなっている。そうした状況で非常に苦労している。予選からチームを増やして、小学生がスポーツをする機会を増やしていけたらと思い、子ども会やPTAと接触しているが、なかなか難しい状況である。

伊藤委員長

昔と異なり、子どもたちにも色々と都合があって、子どもたちを集めることに私自身苦労したことがあった。

小野委員

子ども会やPTA、町内会なども全ての人が加入しているということではないようである。そのため、子どもたち全員を対象として、選手を選出できないと思う。

事務局

豊川市にとって市民体育大会は貴重な財産だと思っている。子どもや選手を集めることが難しくなっているという声は現場から上がっているが、友達や子ども会から声をかけることで皆さんに参加していただいている現状がある。その点は人とのつながりに頼っていることになるが、市民体育大会がなくなったらそうしたこともなくなってしまうので、現場としては大変かもしれないが、市民体育大会を継続していくことも非常に重要なことだと思う。60回を超え歴史ある大会なので、可能な限り継続していきたいと思う。ただし、形は時代とともに変えていかなければならない部分もある。その点については真摯に耳を傾けて、より良い大会にしていきたいと思う。

伊藤委員長

市民体育大会は市内の人が一堂に会する良い機会だと思うので、このまま継続して発展させていただきたいと思う。

今後のeスポーツはどうなっていくのか、動向が気になる場所である。個人的にはeスポーツはスポーツではないと思うのだが、オリンピック種目になるという話もあるため、5年後の計画見直しの際に場合によってはスポーツとして入ることもあり得るのか。

事務局

特にeスポーツについては企業の力が大きいと感じている。企業によるeスポーツの捉え方や取り上げ方の熱量によって、スポーツとしての位置づけを今後獲得する可能性はあると思う。ただし、現時点ではe-スポーツをスポーツとして広く認知されていない。

策定委員会の下部組織である作業部会も、e スポーツが話題になった。現時点では日本スポーツ協会の加盟団体ではないが、将来的にはどうなるか分からない。ただ、現状はあくまでもエンターテインメントであり、どちらかというゲームに近く、スポーツではないと思う。今後は社会の形や情勢も変わってくるかもしれないので、事務局としても注視していきたいと思う。

(2) パブリックコメントの実施について

(3) 今後のスケジュールについて

事務局 資料に基づき説明。

伊藤委員長 ご意見やご質問はあるか。議題(2)(3)について、事務局の提案通り承認するということが良いか。

(一同承認)

(4) その他

事務局 資料に基づき説明。

伊藤委員長 スポーツに関するアンケート調査結果報告書は、事務局からの説明通り成果物として確認したいと思う。また、本報告書はページ数も膨大であるため、改めて事務局による精査をお願いしたいと思うが、字句の修正等については事務局に一任するということがお願いしたいと思う。

3. その他

事務局 (各種事務連絡)

原田部長 あいさつ